

【学力向上フロンティアスクール用中間報告様式】

都道府県名	大阪府
-------	-----

I 学校名及び規模（平成15年4月現在）

学校名	泉大津市立誠風中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	6	6	5	3	20	39
生徒数	212	215	196	10	633	

II 研究の概要

1. 研究主題

生徒一人ひとりに「確かな学力」をつけるための少人数授業等による授業形態の効果的な指導法の研究・実践

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

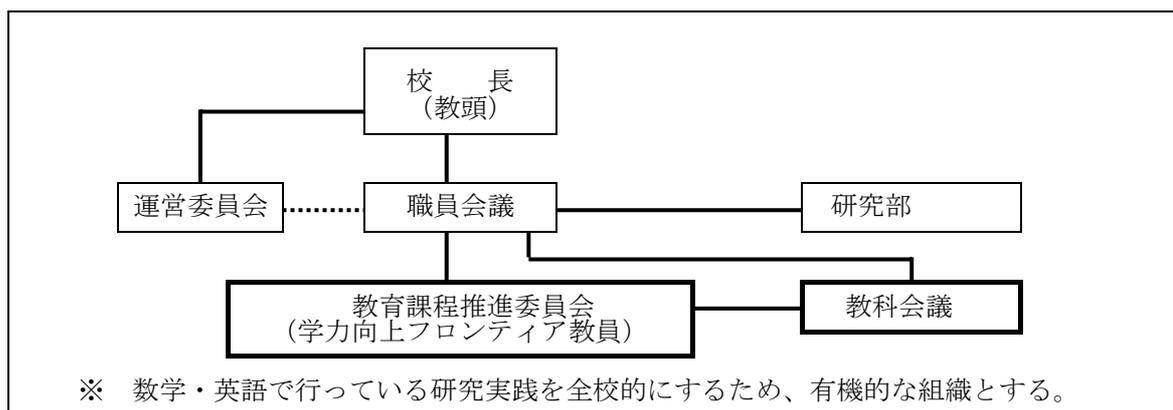
- ・ 1・2年生・数学
 - ※ これまで数年間、T.Tとしての取組を行ってきた成果を踏まえ、生徒の理解に差が生じ始める1年生、更に差が大きくなる2年生時であるため。
- ・ 1年生・英語
 - ※ 初めて触れる教科であり、興味関心を持たせ、学習意欲を高めるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ 生徒の学力把握と、実態に合う指導法・授業形態の確立 ○ 研究の見通し <ul style="list-style-type: none"> ① 府学力調査への参加による生徒の学力実態の把握・分析 ② 教科単元の適切な教材の工夫 ③ 習熟度別・単純分割等による少人数授業形態の実施 ④ 生徒・保護者による評価（学校教育診断）の実施 ○ 研究の方法 学力向上フロンティア教員を中心に据え、「教育課程推進委員会」で全校的な企画を行い、「教科会議」が中心となって具体化を図り、実践を行う。
--------	---

平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ 学年・単元に応じた授業形態の確立、及び学習教材のモデル作成 ○ 研究の見通し <ul style="list-style-type: none"> ① 外部機関との連携を含む『学力調査』による学力実態の把握と分析 ② 習熟度別・単純分割等による授業実施、及び授業研究等（公開研究授業等含む）の実施 ③ 生徒・保護者による評価の実施 ○ 研究の方法 学力向上フロンティア教員を中心に据え、「教育課程推進委員会」で全校的な企画を行い、「教科会議」が中心となって具体化を図り、実践を行う。
--------	---

(3) 研究推進体制



Ⅲ 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

◎ 数学科

- ① 週3時間のなかで、原則的に1時間を少人数授業とするカリキュラムを実施するため、本校独自の教材の組み直しを研究、実施する。その成果として余裕を持った授業の進捗を図ることが出来た。
- ② 年度当初は二分割による授業を行ったが、より効果を上げるため習熟度別三分割授業を1年生において実施できる体制を整える。
- ③ 習熟度別に分割するに当たって、本人の希望を主体にしながらも教師の指導を入れることが出来る理解を、生徒・保護者に持たせることが出来た。(保護者の理解は、週1回の「学校通信「翌桜」を利用して、時機に応じて現状をそのまま伝え理解と信頼を得る[資料参照]。)
- ④ 大阪府学力調査による学力の現状調査・分析は、全体の結果が発表されていないため結果を待って分析を行う。

◎ 英語科

- ① これまでもALTとのT.T授業を行ってきたが、入り込み教員を1名増やし時間内での小グループによる英会話を主とする授業形態が出来るような教材の研究と実践が出来た。
- ② そのため生徒の英語に対する興味・関心が高まり、校内音楽会で英語が入った曲を選ぶ学級も出てくるようになった。

2. 今後の課題

◎ 数学科

- ・ 全体としての習熟状態は良くなってきたが、二極化が見られる(資料参照)。また、子どもの中には、もともと「数学が嫌い」だからと諦めてしまっている(アンケート調査の自由記入に見られた)生徒もあり、その克服の対策を如何にするかが大きな課題といえる。

◎ 英語科

- ・ 現状ではALTが一人しか配置されていないため、一つのクラスを1時間内に小グループに分けて行う授業としているが、全時間を少人数授業体制を工夫することが今後の課題である。

